

令和3年度使用

中学校用教科用図書研究資料

書 写

宮崎県教育委員会

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「見つける」「確かめる」「生かす」などの段階に分け学習を進めることで、学習のめあてに到達させるような工夫が見られる。</p> <p>また、単元の配列については、「書写のかぎ」で習得したことを基に、国語科等と連動する言語活動「生活に広げよう」を配置することで、日常生活に生きて働く力を育成するような工夫が見られる。</p>
15 三省堂	<p>(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「確かめる」「見つける」「振り返る」などの段階に分け学習を進めることで、学習のめあてに到達させるような工夫が見られる。</p> <p>また、単元の配列については、毛筆で書いて習得したことを基に、硬筆による書き込みページ「書いて身につけよう」を配置することで、日常生活に生きて働く力を育成するような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「考える」「生かす」「振り返る」などの段階に分け学習させることで、学習のめあてに到達させるような工夫が見られる。</p> <p>また、単元の配列については、習得した知識や技能を基に、多様な学習活動や日常生活の場面を想定した言語活動を数多く配置することで、日常生活に生きて働く力を育成するような工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「考える」「確かめる」「生かす」などの段階に分け学習を進めることで、学習のめあてに到達させるような工夫が見られる。</p> <p>また、単元の配列については、国語科で学習した内容を基に、伝統的な言語文化が意識できる「季節のしおり」などを配置することで、日常生活に生きて働く力を育成するような工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な硬筆文字の比較から課題を発見させたり、話し合い活動を通して、評価のための振り返りをさせたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「書写のかぎ」を用いて単元のポイントを理解させたり、ポイントを動画で確かめながら文字を書かせたりする工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「書写活用ブック」等を用いて情報を効果的に発信させようとする工夫が見られる。</p>
15 三省堂	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、課題を指でなぞってイメージをつかませたり、理由を含めた話し合い活動を通して、自己の考えを確実にしたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、短い言葉を用いて書き方のポイントを理解させたり、同じ特徴の文字を用いてポイントを再度確認させたりする工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、便箋、封筒、はがきなどの書式等を用いて実生活につなげようとする工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学習のプロセスを明確にして見通しをもたせたり、試し書きとまとめ書きの比較を通して、変容を評価させたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、簡単な言葉を用いて適切な運筆を理解させたり、毛筆の前後に硬筆で同じ文字を練習させて関連を図ったりする工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各教科等とのつながりを意識し、教科横断を図ろうとする工夫が見られる。</p>

38 光 村	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、写真解説で学習段階を示したり、冒頭で文字の原理を話し合うことを通して、確認したことを踏まえ毛筆につなげたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「学習の窓」を用いて単元のポイントを理解させたり、毛筆の学習を書写ブックに設定した硬筆課題につなげたりする工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、目的に応じて文字を使い分けるコーナーを設けるなど、文字への関心を高めようとする工夫が見られる。</p>
--------	---

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 毛筆の学習内容を同じ位置に配置したり、利き手を配慮した書き込み欄を設けることで、円滑に活動できるようにしたりしている。</p> <p>また、毛筆教材を実際の半紙に書いた手本に近い大ききで示したり、運筆動画を用いた学習ができるようにしたりするなど、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。</p>
15 三省堂	<p>(1) 硬筆教材の書き込み欄を多く設けたり、自分が学習したことを最後に書き留めたりすることで、到達度を確認できるようにしている。</p> <p>また、最初の毛筆教材を実物大の手本で示したり、朱墨写真を用いて基本点画の運筆を理解できるようにしたりするなど、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 硬筆教材の書き込み欄に、補助線を入れたり、試し書きと、まとめ書きを比較したりすることで、適切な評価を行いやすくしている。</p> <p>また、毛筆教材を、半紙形を維持した紙面を用いることで、教材文字の観察がしやすくなったり、真上からの撮影動画を用いた学習ができるようになったりするなど、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 硬筆教材を別冊にしたり、QRコードを毛筆教材と同じページに掲載したりすることで、個に応じた学習を進められるようにしている。</p> <p>また、毛筆教材の手本の右上に穂先の動きを示したり、文字の中心に印をつけることで配置を意識させたりするなど、学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。</p>